

1 全体像	2～4 持続可能とグローバル化	5・6 情報化	7・8 少子高齢化	9～11 文化	12～15 見方・考え方	16 まとめ
-------	-----------------	---------	-----------	---------	--------------	--------

1 この単元の全体像 ― 今の社会にはどんな特色があり、意見のちがう人とどう決まりをつくる？

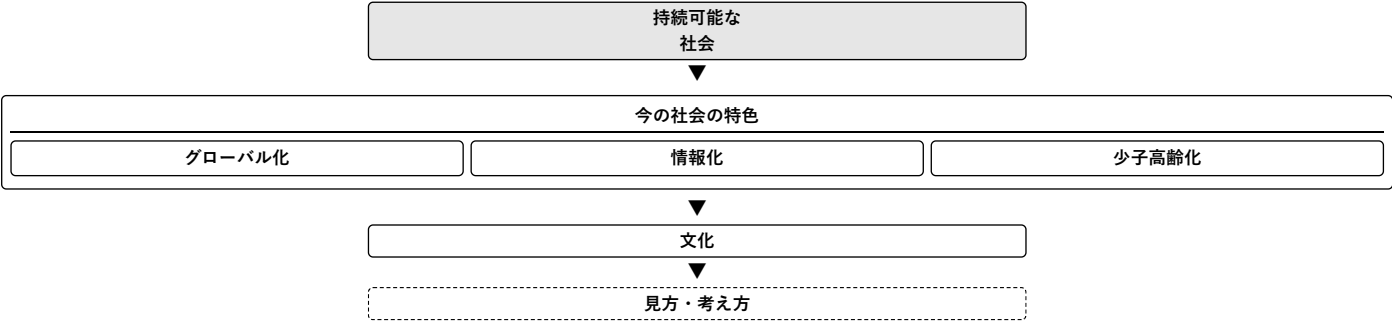
このページのゴール
 この単元で学ぶ6つのことを、ざっとと言える

公民は、世の中のしくみや決まりを知る科目です。知らないと、損をすることもあります。歴史の最後（③後半）で、日本がグローバル化や少子高齢化などの課題に向き合っていることを学びました。この単元では、今の社会の特色と決まりのつくり方を、全体の図で見わたしてから順に学びます。

① Mさんのまちで見かけた場面 → どの特色の例か

駅前の案内板に、いくつもの外国語が書かれている	→	グローバル化（3・4ページ）
タブレットで注文するお店がふえた	→	情報化（5・6ページ）
子どもの数が減った小学校	→	少子高齢化（7・8ページ）
お年寄りの多い商店街	→	少子高齢化（7・8ページ）

② 単元の全体図



③ この単元で学ぶ6つのこと

学ぶこと	くわしくは	問い
① 持続可能な社会	2ページ	将来も続く社会とは？世界の目標は？
② グローバル化	3・4ページ	世界とのつながりの、よい点と課題は？
③ 情報化	5・6ページ	新しい技術で何が変わり、課題は？
④ 少子高齢化	7・8ページ	子どもが減り、お年寄りがふえると？
⑤ 文化	9～11ページ	文化の役割は？ともに生きるには？
⑥ 対立と合意・効率と公正・決まり	12～15ページ	意見がぶつかったら、どう決める？

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com)
<https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad3%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%85%ac%e6%b0%91%e3%80%91%e7%8f%be%e4%bb%a3%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%81%a8%e7%>

2 これからの社会は、何をめざす？

このページのゴール 持続可能な社会と SDGs の意味を言える

① 今の便利なくらしは、この先も続けられる？

資源を使いすぎたり、環境をこわしたりすると、これから生まれてくる世代の生活が苦しくなります。そこで、これからの社会がめざす考え方が生まれました。

持続可能な社会（じぞくかのうなしゃかい）：将来の世代の幸福と、今の世代の幸福を両立できる社会。

② 3つの課題をあわせて考える

課題	どんなことか	例
環境	自然や資源を守ること	ごみを減らす・資源を大切に使う
経済	仕事があり、くらしが成り立つこと	働く場所があり、お金が回る
社会	だれもが安心してらせること	助け合い・安全なまちづくり

考え方の例 まちに新しい工場をつくる場合を考えます。働く場所がふえます（経済）。でも、川がよごれないか（環境）、近くの人が安心してらせるか（社会）も、あわせて考えます。1つの課題を優先しすぎると、別の所で困る人が出ることがあります。

③ 世界の目標と、私たちにできること

③後半（歴史の最後）でも学んだ SDGs を、意味から確かめます。

SDGs（持続可能な開発目標）：2015年に国際連合が採択した、2030年までに達成をめざす17の目標。

東日本大震災（2011年）からの復興や、災害に備える防災も、持続可能な社会づくりの1つです。

社会参画：私たち一人ひとりが社会の一員として、課題の解決に関わること。例：地域の防災訓練に参加する。

注意 × 持続可能な社会は、環境だけを守る社会 ○ 環境・経済・社会の課題をあわせて考える社会

合言葉 「今の幸せも、未来の幸せも」

→ まとめ：めざすのは、将来の世代と今の世代の幸福を両立できる持続可能な社会

3 世界とのつながりは、どう変わった？

このページのゴール グローバル化・国際競争・国際分業の意味を言える

① グローバル化とは？

昔にくらべて、遠い国のことが身近になりました。このような変化を、グローバル化といいます。

グローバル化：人・もの・お金・情報が国境をこえて行き来し、世界の一体化が進むこと。

身近な例（人・もの・お金・情報の行き来）

- ・ **人**：外国から来た人と、同じ職場で働く。
- ・ **もの**：港に着いた貨物船から、荷物がおろされ、国内へ運ばれる。
- ・ **お金**：外国の会社と、お金のやりとりをする。
- ・ **情報**：家にいながら、外国の人と、すぐにやりとりできる。

このように、国と国との結びつきが深まると、世界の企業どうしの関係も変わります。それが次の2つです。



コンテナ船と、コンテナを積みおろすクレーン
(東京港の大井コンテナふ頭)

写真：Christophe95 (CC BY-SA 4.0)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

② 国際競争と国際分業をくらべる

	国際競争	国際分業
意味	よりよい商品をより安く提供しようと、世界の企業がきそうこと	それぞれの国が得意なものを生産して輸出し、不得意なものを輸入すること
だれとだれの関係	同じ種類の物をつくる企業どうし	ちがう物を得意とする国どうし
例（架空の国 A・B）	A国とB国の企業が、同じ種類の自動車の品質をよくなり、値段を安くしようとしよう → 買う人は、よりよい物をより安く買える	A国は気候が合うコーヒー豆の生産が得意、B国は機械の生産が得意 → A国はコーヒー豆を輸出して機械を輸入し、B国は機械を輸出してコーヒー豆を輸入する
買う人から見ると	よりよい物を、より安く買える	世界各地のいろいろな物を買える

国際分業が進むと、国々はたがいの輸出と輸入にたよるようになります。世界の国々の結びつきが深まるのは、このためです。

注意 × 国際分業とは、何でも自分の国でつくること ○ それぞれの国が得意な物を生産して輸出し、不得意な物を輸入すること

→ まとめ：グローバル化で、世界の国々はたがいにたより合うようになった

4 グローバル化で、何がよくなり、何が課題になった？

このページのゴール グローバル化のよい点と課題、国際協力を言える

① よい点と課題

豊かで便利になった点	課題
世界各地の食べ物や製品を買える	日本は食料の多くを輸入にたよっている → 輸入が止まると困る
外国の人と交流できる	1つの国では解決できない問題が広がりやすい
世界の企業がきそい、よりよい商品をより安く買える	世界の企業どうしのきそい合いが、きびしくなる

よい点と課題は、セットで見ることが大切です。

② 食料の輸入にたよると、何が困る？

食料自給率：国内で消費する食料のうち、国内で生産した量の割合。自給率が低いと、食料を輸入にたよる部分が多くなる。日本は低い。

考え方の例 食料の多くを輸入にたよる国は、輸入先で不作や争いが起こり、食料が日本に届かなくなると、国内の食料が足りなくなるおそれがあります。だから、輸入先を広げたり、国内の生産を守ったりすることが課題になります。

③ 1つの国では解決できない問題

人やものの行き来がふえると、問題も国境をこえて広がります。たとえば、地球環境問題や感染症です。感染症は、人の行き来がふえると、国境をこえて広がります。

問題が国境をこえて広がる

1つの国では解決できない

多くの国が協力して取り組む

国際協力：地球環境問題や感染症のように、1つの国では解決できない問題に、多くの国が協力して取り組むこと。

ちがう国から来た人とくらす課題は、11ページの「多文化共生」でくわしく学びます。

注意 × 食料自給率が低い国は、食料をたくさん輸出している ○ 国内で生産した割合が低く、輸入にたよっている

→ まとめ：グローバル化には、よい点と課題があり、国際協力が欠かせない

5 情報化で、くらしはどう変わった？

このページのゴール 情報化・ICT・AI・IoT の意味を言える

① 情報化とは？

情報化：情報通信技術（ICT。コンピューターやインターネットなど、情報をやりとりする技術）の発達で、情報が社会の中で大きな役割を果たすようになること。

インターネットやスマートフォンが、その代表です。

② できるようになったこと

場面	できるようになったこと
連絡	遠くの人と、すぐにやりとりできる
買い物や手続き	家にいながら、買い物や手続きができる
学習	知りたいことを、インターネットですぐに調べられる

③ 新しい情報技術：AI と IoT

人工知能（AI）：人間の知能の働きの一部を、コンピューターで行う技術。
例：多くの情報を分析して、役立てる。

IoT：身の回りのいろいろな物がインターネットにつながること。
例：外から、家の電気製品を動かす。

見分け方 この2つは、見るところがちがいます。

	AI	IoT
何に注目する？	コンピューターが、考える働きの一部を行うこと	物が、インターネットにつながる事
たずねる言葉	「何を分析し、何を役立てるか」	「どんな物がつながり、何を動かすか」

組み合わせの例 IoT でつながった家の電気製品が集めた使用の記録を、AI が分析して、むだな電気を減らす方法を考える。IoT は「集める・つなぐ」、AI は「考える」という役割になることが多いです。便利になる一方で、課題もあります（6ページ）。

注意 ×IoT とは、人間の知能の働きをコンピューターで行う技術 ○それはAI。IoT は、物がインターネットにつながる事

→ まとめ：情報化で、人や情報が結びつき、AI や IoT が生活を変えている

6 情報化で、どんな課題が生まれ、私たちは何ができる？

このページのゴール 情報化の課題と、情報リテラシー・情報モラルのちがいを言える

① 情報化の課題

課題	どんな問題か
個人情報の流出	名前や住所など、一人ひとりに関する情報が外にもれて、悪用されるおそれがある
うその情報の広がり	まちがった情報が、またたく間に広がる
インターネット上の人権侵害	悪口を書きこむなどして、人を傷つける
情報を使える人と使えない人の差	情報機器を使いこなせるかどうかで、得られる情報や機会に差が出る

② 私たちにできること：2つの力

	情報リテラシー	情報モラル
意味	情報を正しく判断して活用する力	情報を正しく使うための考え方や態度
ひと言で	見分ける力	正しく使う心がけ
例	「飲むだけでやせる」という広告を見て、出している会社や根拠を調べる	友だちの住所を、本人の許可なくインターネットに書きこまない

③ 情報を受け取る時の確かめ方

- ① だれが出した情報か確かめる 出どころが分からない情報は、まちがっていることがあるからです。
- ② いつの情報か確かめる 古い情報は、今は当てはまらないことがあるからです。
- ③ ほかの情報とくらべる ほかの記事や、くわしい人の話ともくらべると、まちがいに気づけるからです。
- ④ 人に伝える前に考える 広めた情報が人を傷つけたり、個人情報にふれたりしないかを確かめるためです。

注意 × 情報モラルとは、情報を正しく判断して活用する力 ○ それは情報リテラシー。情報モラルは、情報を正しく使うための考え方や態度

合言葉 「リテラシーは見分ける力、モラルは正しく使う心がけ」

→ まとめ：情報化の課題には、見分ける力と正しく使う心がけの両方で向き合う

7 日本の人口は、どう変わってきた？

このページのゴール 少子化・高齢化の意味と原因、人口ピラミッドの読み方を伝える

① 少子高齢化とは？

少子高齢化：子どもの数が減る**少子化**と、65歳以上の高齢者の割合が高まる**高齢化**が、同時に進むこと。今の日本は、人口のおよそ3割が65歳以上。

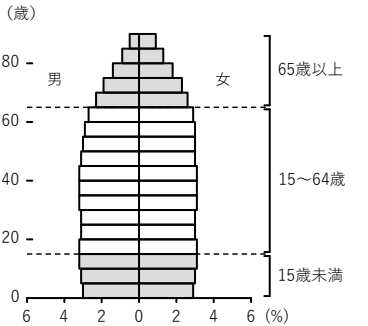
	少子化	高齢化
意味	子どもの数が減ること	65歳以上の高齢者の割合が高まること
目安	合計特殊出生率 （しゅっしょうりつ）：1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均	人口に占める、65歳以上の人の割合
原因の例	結婚する年齢が上がる・結婚しない人がふえる・子育てや教育の負担	医療の発達などで、 平均寿命 （じゅみょう。生まれた人が平均して何年生きられるかを表す年数）がのびた

② 人口ピラミッドの読み方

人口ピラミッド：年齢ごとの人口の割合を、男女に分けて横の棒で積み上げたグラフ（下が若い年齢、上が高い年齢）。

- 横軸は割合（％）、縦軸は年齢です。左が男、右が女です。
- 下の段は15歳未満、上の段は65歳以上です。
- 少子高齢化が進むと、下の段がせまく、上の段が広がります。
- 2つのピラミッドをくらべるときは、下の段と上の段が、それぞれせまくなったか、広がったかを言います。

人口ピラミッドの読み方（例。練習用の架空の形）



③ グラフの読み方：「差」と「何倍」はちがう物差し

例（架空） ある2つの町で、自転車で通う人の割合を調べました。
町A：10％ → 20％（差は10ポイント、2倍） 町B：30％ → 42％（差は12ポイント、1.4倍）
差は町Bの方が大きいのに、何倍になったかは町Aの方が大きくなります。割合を読むときは、「差」を言うのか、「何倍」を言うのかを確かめます。（割合どうしの差は「ポイント」で表します）

注意 × 少子化とは、高齢者がふえること ○ 少子化は子どもの数が減ること。高齢者の割合が高まるのは高齢化

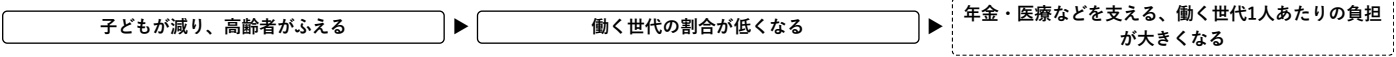
→ まとめ：少子高齢化が進み、人口ピラミッドの形が変わっている

8 少子高齢化で、何が課題になり、家族の形はどう変わった？

このページのゴール 社会保障の課題と、核家族・単独世帯を言える

① 働く世代の負担が大きくなる

社会保障：年金・医療などで、人々の生活を支えるしくみ（くわしくは⑩後半で学ぶ）。



考え方の例（架空） はじめは、4人の働く世代で1人の高齢者を支えていたとします。それが2人で1人を支えるようになると、働く世代1人あたりの負担は2倍になります。支える人が減るほど、1人あたりの負担は大きくなります。

② 家族の形の変化

家族の形	意味	変化
<u>核家族</u>	夫婦だけ、または親と未婚の子どもの家族	ふえた
<u>単独世帯</u>	一人で住む世帯（同じ家でくらす人のまとまりが1人）	ふえた
高齢者だけの世帯	高齢者だけでくらす世帯	ふえた

家族の形が多様になると、困ったときに助け合える人が家の中に少なくなることがあります。そのため、地域で支え合うことが大切になります。

③ 課題への取り組み：2つの支援

支援	困りごとの例	ねらい	地域の取り組みの例
子育て支援	共働きで、昼間に子どもを見る人がいない	子どもを産み、育てやすくする	保育所をふやす
高齢者支援	一人でくらす高齢者の体調が、まわりに分かりにくい	高齢者が安心してくらせるようにする	介護を受けられるしくみをととのえる

どちらの支援も、国や市町村の取り組みに加えて、地域の人どうしの助け合いが力になります。

注意 × 核家族とは、祖父母・親・子の3世代でくらす家族 ○ 夫婦だけ、または親と未婚の子どもの家族

合言葉 「支える人が減れば、1人あたりの負担は増える」

→ まとめ：少子高齢化で、働く世代の負担が大きくなり、家族の形も変わった

9 文化は、私たちの生活の中でどんな役割を果たしている？

このページのゴール 文化の意味と、科学・宗教・芸術の役割を言える

① 文化とは？

文化：人々が生活の中でつくり上げ、受けついできた、物の考え方や生き方・生活のしかた。

食べ物・ことば・行事・音楽など、生活の中のいろいろな物が文化です。その中の代表的な3つの分野を、くらべてみます。

② 3つの分野の役割

	科学	宗教	芸術
役割	自然や社会のしくみを明らかにし、生活を便利で豊かにする	人々の心のよりどころとなり、生き方を示す	絵画・音楽・文学などで、人々の心を豊かにする
例	医療・技術の発達	神社の祭りや、寺の行事など、地域の行事とも結びつく	絵画・音楽・文学
気をつけること	使い方によっては、問題もおこす	信じる宗教は人によってちがうので、たがいに尊重する	好みは人によってちがうので、ちがいを認める

③ 見分け方：何のための文化か

身近な場面	ねらい	分野
新しい薬や、便利な機械が生まれる	生活を便利で豊かにする	科学
寺や神社にお参りして、手を合わせる	心のよりどころになる	宗教
町の音楽会で、演奏を聞く	心を豊かにする	芸術

この3つは、はっきり分けられるとはかぎりません。たとえば、地域の祭りでは、神社の行事（宗教）に、太鼓や笛の演奏（芸術）が加わります。1つの場面に、複数の分野が重なることもあります。

注意 × 科学は、使い方にかかわらず、問題をおこさない ○ 使い方によっては、問題もおこす。だから、使い方を考えることが大切

合言葉 「便利にする科学、心のよりどころの宗教、心を豊かにする芸術」

→ まとめ：文化は、科学・宗教・芸術の役割を通して、私たちの生活を支えている

10 昔から受けつがれてきた文化を、どう受けつぎ、新しくしていく？

このページのゴール 伝統文化・伝統芸能・年中行事と、地域の文化の多様さを言える

① 伝統文化と伝統芸能

伝統文化：長い歴史の中で受けつがれてきた文化。能（のう）・狂言（きょうげん）・歌舞伎（かぶき）・文楽（ぶんらく。人形浄瑠璃〈にんぎょうじょうり〉）などを**伝統芸能**、毎年決まった時期に行う行事を**年中行事**（ねんじゅうぎょうじ）という。茶道（さどう）・華道（かどう）も伝統文化。

② 年中行事と、地域の文化

月	行事
1月	初詣（はつもうで）
2月	節分
3月	ひな祭り
5月	端午（たんご）の節句
7月	七夕
8月	お盆（地域によって時期がちがう）
11月	七五三（しちごさん）



こいのぼり（端午の節句）
（鳥取県智頭町）

写真：663highland (CC BY 2.5)。Wikimedia Commons より、白黒にした

日本の文化は、地域によって多様です。

アイヌの人々の文化	北海道などに受けつがれてきた文化。
琉球の文化 （りゅうきゅう）	沖縄や奄美（あまみ）に受けつがれてきた文化。

③ 受けつぐ人が少なくなる課題

担い手（にないて）の高齢化や、人口の減少で、伝統文化を受けつぐ人が少なくなっています。そこで、地域の人や若い人が受けつぎ（**継承**。けいしょう）、新しい文化も生まれます（**創造**。そうぞう）。

無形文化遺産：形の無い文化を守り、受けつぐための、ユネスコ（国際連合の専門機関）の登録。2013年、「和食」が登録された。

注意 × 日本の文化は、どの地域でも同じ ○ 地域によって多様

→ まとめ：伝統文化は、地域ごとにちがいが、継承と創造で受けつがれていく

11 ちがう文化をもつ人と、どうともに生きる？

このページのゴール 多文化共生の意味と、そのための取り組みを言える

① 多文化共生とは？

グローバル化が進み、日本に住む外国の人がふえています。くらしのことばや習慣がちがう人どうしが、同じ地域でくらしています。

多文化共生（きょうせい）：ちがう文化をもつ人々が、たがいの文化のちがいを認め合い、対等な関係を築いて、ともに生きること。

② 地域でできる取り組み

取り組み	ねらい	例
多言語の案内	ことばが分からなくても困らないようにする	市役所や駅の案内を、いくつかの言語で書く
ことばや生活習慣のちがいを知る	たがいのちがいを理解する	ごみの出し方など、地域の決まりを分かりやすく伝え、相手の習慣も教えてもらう
地域の行事にいっしょに参加する	顔見知りをつやし、助け合える関係をつくる	祭りや清掃活動に、いっしょに参加する

ともに生きるまでの3つの段階

- ① **ちがいを知る** ことばや習慣がちがう理由を、たがいに知ろうとする。
- ② **ちがいを認める** ちがいがあることを、悪いこととして決めつけない。
- ③ **対等な関係で、ともに行動する** どちらかが上、どちらかが下ではなく、地域の一員として、いっしょに取り組む。

③ 自分の文化とほかの文化

自分たちの文化を大切にする	ほかの文化を認める
例：地域の祭りを、次の世代へ受けつぐ	例：外国から来た人の習慣を知り、尊重する

この2つは、両方できます。自分たちの文化を大切にする気持ちがあるから、ほかの人の文化も大切にしたい気持ちがある、という面もあります。

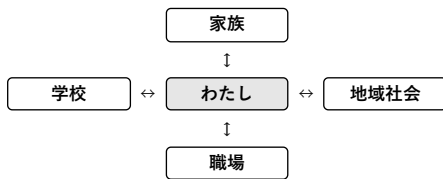
注意 × 多文化共生とは、外国の人が日本の文化に全部合わせること ○ たがいのちがいを認め合い、対等な関係でともに生きること

→ まとめ：ちがう文化の人が、たがいを認め合って、ともに生きる

12 人はなぜ集団の中で生き、意見がぶつかったらどうする？

このページのゴール 社会集団・社会的存在・対立と合意を言える

① 人は、いろいろな集団の中で生きている



社会集団：家族・学校・地域社会・職場など。人間は、いろいろな社会集団に属して生きるのので、社会的存在とよばれる。

家族は、いちばん身近な社会集団です。家族のあり方は、個人の尊厳と両性の本質的平等（一人ひとりを大切にし、男性と女性が対等であること。⑤で学ぶ日本国憲法の考え）にもとづきます。（尊厳＝そんげん、本質的＝ほんしつてき）

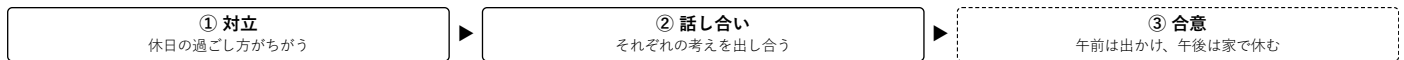
② 意見がぶつかったら

集団の中では、考え方や利害（得をするか損をするか）のちがいがから、意見がぶつかることがあります。

ちがいの種類	例（架空の家族の休日）
考え方のちがい	休日の過ごし方で、「出かけたい人」と「家で休みたい人」がいる
利害のちがい	家に1台のパソコンを、だれが長く使えるか。長く使える人は得で、短い人は損になる

ちがいがあること自体は、悪いことではありません。大切なのは、ぶつかったときに、話し合いで解決をさがすことです。

考え方や利害のちがいがから意見がぶつかることを対立、話し合って、たがいが受け入れられる解決策にいたることを合意という。



一方が我慢する決着は、たがいが受け入れられる解決策とはかぎりません。合意をめざすときは、それぞれの考えをよく聞きます。

注意 × 合意とは、数の多い人の意見に決めること ○ 話し合って、たがいが受け入れられる解決策にいたること

合言葉 「ぶつかったら、話し合って合意へ」

→ まとめ：人はいろいろな社会集団に属し、意見がぶつかったら話し合って合意をめざす

13 決まりは何のためにあり、どう決める？

このページのゴール 決まりの役割と、決め方・採決のしかたの長所と短所を言える

① 決まりの役割

決まり（ルール）：対立を防いだり、合意したことを守ったりするためにつくるもの。

決まりがあると、たがいの権利が守られます。同時に、決まりを守る責任や義務が生まれます。

② 決め方をくらべる

決め方	長所	短所
全員で話し合って決める	みんなが納得しやすい	時間がかかる
代表者が話し合って決める	早く決まる	全員の意見が反映されにくい
1人で決める	早い	みんなの意見が入りにくい

③ 採決のしかた

採決（さいけつ）：話し合いのあと、案に賛成か反対かを確かめて決めること。

採決	しかた	長所	短所
<u>全会一致</u>	全員が賛成して決める	全員が納得する	決まるまでに時間がかかることがある
<u>多数決</u>	賛成が多い方に決める	一定の時間内に決まる	少数の意見が反映されにくい

多数決では、決める前に少数意見を十分に聞くことが大切である。これを少数意見の尊重という。少数の意見を聞くと、ほかの人が気づかなかった問題点や案に、気づけることもある。

決め方の選び方 どの決め方がよいかは、場面によって変わります。全員にかかわる大事なことは、全員で話し合うのが向いています。急いで決める必要があるときは、代表者で決める方法が向いています。決める内容と、かけられる時間で選びます。

数え方の例（架空） 町内会が、行事を決めるアンケートをとりました。全員の票を合計すると、運動会がいちばん多くなりました。しかし、3つの班に分けて見ると、2つの班では、花見がいちばん多くなりました。このように、全体の合計で見ると、班ごとに見ると、いちばん多い物が変わることがあります。

注意 × 多数決で決まれば、少数の意見は聞かなくてよい ○ 決める前に、少数意見を十分に聞く

→ まとめ：決まりは、対立を防ぎ、合意したことを守るためにある。決め方には長所と短所がある

14 みんなが納得する解決策は、何を手がかりに考える？

このページのゴール 効率と公正の意味と、2つの公正さを言える

① 2つの手がかり

効率（こうりつ）：お金・もの・時間・労力などを、むだなく使っているか。全体として、より大きな利益が得られるか。

公正（こうせい）：一人ひとりが尊重され、不当なあつかいを受けていないか。

② 公正さには2つある

	手続きの公正さ	機会や結果の公正さ
意味	みんなが話し合いに参加して決めたか	ほかの人の機会をうばったり、結果が不当になったりしていないか
確かめる問い	関係する人が、決める話し合いに参加できたか	特定の人が、ずっと不利になっていないか
例（掃除当番）	班長が1人で分け方を決めた → 参加できなかった人がいる	同じ人が、ずっと大変な場所を担当する → 結果が不当になる

③ 場面の案を、2つの観点で見る

学級の掃除当番の分け方で、2つの案が出ました。

案	内容	効率の見方	公正の見方
A	掃除の場所を、毎週、全員で順番に交代する	場所に慣れるまで時間がかかり、やり方を教え合う手間もある	全員が同じ条件で、どの場所も担当する
B	場所ごとに担当の班を決め、1年間変えない	慣れて早く終わり、むだが少ない	ずっと大変な場所を担当する班が出る

どちらの案にも、よい点と弱い点があります。そこで、「場所を学期ごとに交代する」のように、案を直します。慣れるまでの手間は減り、全員がいろいろな場所を担当できます。効率と公正は、どちらか一方でなく、両方から考えて、みんなが納得できる案をさがします。

注意 × 効率とは、みんなが同じあつかいを受けること ○ それは公正。効率は、むだがないか

合言葉 「むだはないか、不当はないか、両方から」

→ まとめ：合意のためには、効率と公正の両方から考える

15 決まりは一度決めたら終わり？ 約束を守ることはなぜ大切？

このページのゴール 決まりを見直す観点と、契約の意味を言える

① 決まりの見直し

決まりは、一度決めたら終わりではありません。状況が変われば、決まりをつくったときの前提が変わります。そこで、状況に合わせて決まりを見直すことが大切です。次の観点で、よい決まりかどうかを考えます。

観点	確かめる問い
目的に合っているか	決まりをつくった目的に合った方法になっているか
公正か	だれにとっても同じ条件か
効率的か	むだはないか
みんなが参加して決めたか	決まりをつくる時に、関係する人が参加したか（手続きの公正さ）

見直しの例（架空） 地域のごみ置き場の当番の表をつくったあと、住む人の数がふえて、表に入っていない家が出てきました。そこで、当番の組み合わせを見直します。このとき、むだはないか（効率）、全員が同じ条件か（公正）、決め直す話し合いに住民が参加したか（みんなが参加して決めたか）を確かめます。

② 約束を守る：契約

契約（けいやく）：たがいに合意して結ぶ約束。売買も契約の1つで、口約束でも成立する。

- ① **合意する** 店が「売ります」、買う人が「買います」と、たがいに同意する。
- ② **契約が成立する** 口約束でも成立する。
- ③ **たがいに守る義務（責任）が生まれる** 店は商品をわたす義務、買う人は代金を払う義務を負う。守らないと、相手に損害をあたえることがある。契約を守る責任は、結んだ本人にあります。だから、結ぶ前に、内容をよく確かめ、守れるかどうかを考えることが大切です。契約を結ぶ消費者を守るしくみは、⑨前半で学びます。

注意 × 契約は、書類に書かないと成立しない ○ 口約束でも成立する

合言葉 「決まりは見直し、約束は守る」

→ まとめ：状況が変わったら決まりを見直し、約束（契約）は守る

16 まとめ — 今の社会の特色をふまえ、意見のちがう人と、どう決まりをつくる？

このページのゴール 対立から合意までの流れを、効率と公正を使って説明できる

① 場面：Mさんのまちの広場

Mさんのまちの広場で、ボール遊びをしたい子どもと、静かに過ごしたい高齢者の意見がぶつかりました。このまちでは、子どもの数が減り、高齢者の割合が高まっています（7・8ページ）。外国から来た人も、広場を使います（11ページ）。

② ステップチャート：どう決まりをつくる？

① 対立：ボール遊びをしたい子どもと、静かに過ごしたい高齢者の意見がぶつかる	くわしくは12ページ
② 案を出す：案ア＝時間で分ける（朝は静かに、午後はボール遊び）／案イ＝場所で分ける（広場を2つに区切る）	くわしくは13ページ
③ 効率と公正で見る：広場をむだなく使えるか（効率）、どちらの人にも使う機会があり、話し合いに参加できたか（公正）	くわしくは14ページ
④ 合意して決まりにする：たがいが受け入れられる案を、決まり（ルール）にする	くわしくは12・13ページ
⑤ 使ってみて見直す：状況が変われば、決まりを見直す	くわしくは15ページ

案	効率の見方	公正の見方
案ア（時間で分ける）	広場を、どの時間もむだなく使える	どちらの人にも、使える時間がある
案イ（場所で分ける）	区切るので、広い遊びには使いにくい	どちらの人にも、使える場所がある

どちらの案にも、よい点と弱い点があります。話し合いで、たがいが受け入れられる案を選びます。

③ 1～15ページのまとめ

学んだこと	ひと言
持続可能な社会（2ページ）	将来の世代と今の世代の幸福を両立できる社会をめざす
グローバル化（3・4ページ）	世界の国々はたがいにたより合い、国際協力が欠かせない
情報化（5・6ページ）	AI や IoT が生活を変え、見分ける力と正しく使う心がけが要る
少子高齢化（7・8ページ）	働く世代の負担が大きくなり、家族の形も変わった
文化（9～11ページ）	伝統文化を受けつぎ、ちがう文化の人とともに生きる
見方・考え方（12～15ページ）	対立したら話し合って合意をめざし、効率と公正で決まりをつくり、見直す

問いの答えの例 今の社会には、グローバル化・情報化・少子高齢化という特色があり、文化もさまざまです。意見のちがう人とは、対立を話し合いで合意に近づけます。そのとき、効率と公正の両方から案を見て、決まりをつくり、状況が変われば見直します。

確認問題① これからの社会・世界・情報・人口と家族

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 これからの社会と世界とのつながりについて答えなさい。【2・3・4ページ】

- (1) 将来の世代の幸福と、今の世代の幸福を両立できる社会を、何といいますか。 _____
- (2) 2030年までの達成をめざして国際連合で採択された17の目標の略称を、アルファベットで書きなさい。

- (3) Kさんは、部活の道具の多くが外国でつくられた物だと気づいた。このように、人・もの・お金・情報が国境をこえて行き来し、世界の一体化が進むことを何といいますか。

- (4) 国際分業の説明として正しい物を1つ選びなさい。 _____
ア 輸入を減らし、国内で生産した物を多く使う イ 得意な物を生産して輸出し、不得意な物を輸入する ウ 国どうしが相談して、同じ物を同じ量だけ生産する
エ 輸出する物を、国が1種類に決めて生産する
- (5) よりよい商品をより安く提供しようと、世界の企業がきそうことを何といいますか。

- (6) 国内で消費する食料のうち、国内で生産した量の割合を何といいますか。 _____
- (7) 地球環境問題や感染症のように、1つの国では解決できない問題に、多くの国が協力して取り組むことを何といいますか。

2 情報について答えなさい。【5・6ページ】

- (1) 情報通信技術の略称を、アルファベット3字で書きなさい。 _____
- (2) 身の回りのいろいろな物がインターネットにつながることを、アルファベットで何といいますか。

- (3) 人間の知能の働きの一部をコンピューターで行う技術を、何といいますか。 _____
- (4) Kさんは、インターネットで見た話を、ほかの記事や公的な機関の発表でも確かめてから、家族に伝えた。このように、情報を正しく判断して活用する力を何といいますか。

- (5) Kさんは、部活の集合写真をインターネットにのせる前に、写っている人に聞くことにした。このような、情報を正しく使うための考え方や態度を何といいますか。

- (6) 情報化の課題に当てはまらない物を1つ選びなさい。 _____
ア 名前や住所などが外にもれる イ うその情報が広がる ウ インターネット上で人を傷つける書きこみがされる エ 遠くの人と、すぐにやりとりできる

3 人口と家族について答えなさい。【7・8ページ】

- (1) 1人の女性が一生の間に産む子どもの数の平均を、何といいますか。 _____
- (2) 少子化の原因の例として当てはまる物を1つ選びなさい。 _____
ア 保育所の数がふえた イ 医療が発達した ウ 結婚する年齢が上がった エ 高齢者の割合が高まった
- (3) 高齢化が進んだわけの1つは、医療の発達などで何のびたことですか。 _____
- (4) 年金や医療などで、人々の生活を支えるしくみがある。高齢者がふえると、このしくみを支える働く世代1人あたりの負担が大きくなる。このしくみを何といいますか。

- (5) Kさんの家は、父・母・Kさん・弟の4人でくらしている。このような家族の形を何といいますか。

- (6) 一人で住んでいる世帯を、何といいますか。 _____

確認問題② 文化・集団・決め方

4 文化について答えなさい。【9・10・11ページ】

- (1) 医療や技術の発達のように、自然や社会のしくみを明らかにして、生活を便利で豊かにする文化の分野を何とといいますか。

- (2) 絵画・音楽・文学などによって、人々の心を豊かにする文化の分野を何とといいますか。

- (3) 初詣・節分・七夕のように、毎年決まった時期に行われる行事を何とといいますか。

- (4) 能・狂言・歌舞伎・文楽のように、昔から受けつがれてきた芸能を何とといいますか。

- (5) 2013年に「和食」が登録された、形の無い文化を守り、受けつぐための登録を何とといいますか。

- (6) ちがう文化をもつ人々が、たがいの文化のちがいを認め合い、対等な関係を築いて、ともに生きることを何とといいますか。

5 集団と意見のちがいについて答えなさい。(Kさんは、生徒会の役員として、文化祭の出し物の時間の決め方を話し合った。)【12ページ】

- (1) 家族・学校・地域社会・職場のような集まりを、何とといいますか。

- (2) 人間は、いろいろな集まりに属して生きることから、何とよばれますか。

- (3) 文化祭の出し物の時間について、クラスごとの希望がぶつかった。このように、考え方や利害のちがいから意見がぶつかることを何とといいますか。

- (4) 話し合いを重ね、どのクラスも受け入れられる時間の割り当てに決まった。このように、話し合って、たがいが受け入れられる解決策にいたることを何とといいますか。

- (5) 家族のあり方のもとになる考えとして、正しい物を1つ選びなさい。 _____
ア 年長者の意見が優先される イ 個人の尊厳と両性の本質的平等 ウ 家の名前を守ることを最も大切にする エ 男性が家族の代表として決める

6 決め方について答えなさい。【13ページ】

- (1) もめごとを防いだり、話し合って決めたことを守ったりするためにつくるものを、何とといいますか。

- (2) (1)の答えができると、たがいの権利が守られるとともに、守る人に生まれるものを1つ選びなさい。 _____
ア 責任や義務 イ 不満 ウ 差別 エ 争い
- (3) 全員が賛成して決める採決のしかたを、何とといいますか。

- (4) 一定の時間内に決まるが、少数の意見が反映されにくい採決のしかたを、何とといいますか。

- (5) 代表者が話し合って決める方法の長所として、正しい物を1つ選びなさい。 _____
ア 全員の意見が、そのまま反映される イ 決まるまでの時間が長くなる ウ 時間をかけずに決めやすい エ 話し合いが、1回で終わらなくなる
- (6) 人数の多い方の意見で決める前に、大切なことを書きなさい。

確認問題 ③ 2つの手がかり・約束とまとめ

7 決めるときの2つの手がかりについて答えなさい。(Kさんの学校では、4つの部が使う部室と道具の分け方を話し合うことになった。)【14ページ】

(1) お金・もの・時間・労力などを、むだなく使っているかという考え方を、何とといいますか。

(2) 一人ひとりが尊重され、不当なあつかいを受けていないかという考え方を、何とといいますか。

(3) 分け方を決める話し合いに、4つの部の代表が全員参加した。これは、(2)の答えを見るときの2つの面のうち、次のどちらにあたりますか。 _____

ア 手続きの面 イ 機会や結果の面

(4) 前は1つの部だけが広い部室を使い続けていたので、毎年交代で使うようにした。これは、(2)の答えを見るときの2つの面のうち、次のどちらにあたりますか。

ア 手続きの面 イ 機会や結果の面

(5) 練習の道具を部ごとに買わず、4つの部で共同で使うことにした。(1)・(2)の考え方のうち、このことにあたるのはどちらですか。番号で答えなさい。

(6) (1)・(2)の2つの考え方について、正しい物を1つ選びなさい。 _____

ア 両方の考え方から案を見て、みんなが納得できる案をさがす イ 考え方が2つあるときは、最初に出た案を採用する

ウ どちらか一方の考え方で決めれば、もう一方は考えなくてよい エ 話し合わずに、人数が多い方の案を選ぶ

8 決め直しと約束・まとめについて答えなさい。【15・16ページ】

(1) 状況が変われば、大問6(1)の答えをどうするとよいですか。「見」で始まる3字の言葉で書きなさい。

(2) たがいに合意して結ぶ約束で、売買もその1つであるものを、何とといいますか。

(3) (2)の答えについて、正しい物を1つ選びなさい。 _____

ア 売る側にだけ、約束を守る義務が生まれる イ 一度結んだ約束は、いつでも一方の考えだけで取り消せる ウ 結んだ約束を守る責任は、結んだ本人にはない

エ 口約束でも成立し、たがいに守る義務が生まれる

(4) Kさんの学校の生徒会が、図書室の使い方を決める流れとして、次のア～エを正しい順に並べかえなさい。 _____

ア 話し合いで、たがいが受け入れられる形に決める イ 案を、むだがないか・不当なあつかいがないかの2つの見方で見ると ウ 考え方のちがいが意見がぶつかる

エ 実際に使ってみて、必要なら改める

(5) 状況が変わり、大問6(1)の答えを改めるときに確かめる観点を、2つ書きなさい。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

持続可能な社会とグローバル化（2～4ページ）

持続可能な社会	将来の世代の幸福と、今の世代の幸福を両立できる社会。SDGs＝2015年に国際連合が採択した、2030年までに達成をめざす17の目標。社会参画＝社会の一員として課題の解決に関わること
グローバル化	人・もの・お金・情報が国境をこえて行き来し、世界の一体化が進むこと。国際競争＝よりよい商品をより安く提供しようと企業がきそう。国際分業＝得意なものを生産して輸出し、不得意なものを輸入する。食料自給率＝国内で消費する食料のうち国内で生産した量の割合。国際協力＝1つの国では解決できない問題に、多くの国が協力して取り組む

情報化（5・6ページ）

情報化	情報通信技術（ICT）の発達で、情報が社会の中で大きな役割を果たすこと。人工知能（AI）＝人間の知能の働きの一部をコンピューターで行う技術。IoT＝身の回りの物がインターネットにつながる
課題	個人情報の流出・うその情報の広がり・インターネット上の人権侵害・情報を使える人と使えない人の差
2つの力	情報リテラシー＝情報を正しく判断して活用する力。情報モラル＝情報を正しく使うための考え方や態度

少子高齢化と家族（7・8ページ）

少子高齢化	少子化（子どもの数が減る。目安は合計特殊出生率）と高齢化（65歳以上の割合が高まる。平均寿命がのびた）が同時に進む。原因の例＝結婚する年齢が上がる・結婚しない人がふえる・子育てや教育の負担
人口ピラミッド	年齢ごとの人口の割合を、男女に分けて横の棒で積み上げたグラフ。少子高齢化が進むと、下の段がせまく、上の段が広がる。「差」と「何倍」はちがう物差し
課題と家族	働く世代1人あたりの社会保障の負担が大きくなる。核家族＝夫婦だけ、または親と未婚の子ども。単独世帯＝一人で住む世帯。子育て支援と高齢者支援

文化（9～11ページ）

文化	人々が生活の中でつくり上げ、受けついできた物の考え方や生き方・生活のしかた。科学＝生活を便利で豊かにする。宗教＝心のよりどころ。芸術＝心を豊かにする
伝統文化	長い歴史の中で受けつがれてきた文化。伝統芸能（能・狂言・歌舞伎・文楽）。年中行事（初詣・節分・ひな祭り・端午の節句・七夕・お盆・七五三）。アイヌの人々の文化・琉球の文化
継承と創造	受けつぐ人が少なくなる → 継承し、新しい文化を創造する。無形文化遺産＝形の無い文化を守り、受けつぐための登録（「和食」は2013年）
多文化共生	ちがう文化をもつ人々が、ちがいを認め合い、対等な関係でともに生きる。多言語の案内・ちがいを知る・地域の行事にいっしょに参加

見方・考え方（12～15ページ）

社会集団	家族・学校・地域社会・職場。人間は社会集団に属して生きる社会的存在。家族のあり方は個人の尊厳と両性の本質的平等にもとづく
対立と合意	対立＝考え方や利害のちがいが原因で意見がぶつかる。合意＝話し合って、たがいが受け入れられる解決策にいたる
決まり	決まり（ルール）＝対立を防ぎ、合意を守るためにつくる。責任や義務が生まれる。決め方＝全員・代表者・1人。全会一致＝全員が賛成。多数決＝賛成が多い方。少数意見の尊重
効率と公正	効率＝むだなく使っているか。公正＝一人ひとりが尊重され不当なあつかいを受けていないか。手続きの公正さ＝みんなが参加して決めたか。機会や結果の公正さ＝機会をうばったり、結果が不当になったりしていないか。両方から考える
見直しと契約	状況が変われば決まりを見直す（目的に合う・公正・効率的・みんなが参加）。契約＝たがいに合意して結ぶ約束。口約束でも成立し、守る義務が生まれる

合言葉 「今の幸せも、未来の幸せも」／「リテラシーは見分ける力、モラルは正しく使う心がけ」／「便利にする科学、心のよりどころの宗教、心を豊かにする芸術」／「ぶつかったら、話し合って合意へ」

確認問題の答えと解説

1【2・3・4ページ】

(1) 持続可能な社会 (2) SDGs (3) グローバル化 (4) イ (5) 国際競争 (6) 食料自給率 (7) 国際協力

(1) 将来の世代の幸福と、今の世代の幸福を両立できる社会 (2ページ)。 (2) 持続可能な開発目標。2015年に採択され、2030年までに17の目標の達成をめざす (2ページ)。 (3) 人・もの・お金・情報が国境をこえて行き来し、世界の一体化が進むこと (3ページ)。 (4) 国際分業は、それぞれの国が得意なものを生産して輸出し、不得意なものを輸入すること。ア・ウ・エはこれに当てはまらない (3ページ)。 (5) 同じ種類の物をつくる企業どうしが、品質や値段できそう (3ページ)。 (6) 日本は低く、食料の多くを輸入にたよっている (4ページ)。 (7) 国境をこえて広がる問題は、1つの国では解決できないので、多くの国が協力する (4ページ)。

2【5・6ページ】

(1) ICT (2) IoT (3) 人工知能 (AI) (4) 情報リテラシー (5) 情報モラル (6) エ (1) コンピューターやインターネットなど、情報をやりとりする技術 (5ページ)。 (2) 物がインターネットにつながる。人間の知能の働きの一部をコンピューターで行う技術は AI (5ページ)。 (3) 多くの情報を分析して役立てる技術 (5ページ)。 (4) 出どころを確かめ、ほかの情報ともくらべて判断する力 (6ページ)。 (5) 写っている人の気持ちや権利を考えて、情報を正しく使う心がけ (6ページ)。 (6) エは、情報化でできるようになったこと (5ページ)。ア〜ウは、個人情報流出・うその情報の広がり・インターネット上の人権侵害という課題 (6ページ)。

3【7・8ページ】

(1) 合計特殊出生率 (2) ウ (3) 平均寿命 (4) 社会保障 (5) 核家族 (6) 単独世帯 (1) 少子化の目安となる数 (7ページ)。 (2) 結婚する年齢が上がることは、少子化の原因の例 (7ページ)。イは高齢化の原因、エは高齢化そのもの、アは少子化の原因ではない。 (3) 生まれた人が平均して何年生きられるかを表す年数が、医療の発達などでのびた (7ページ)。 (4) 子どもが減り高齢者がふえると、働く世代の割合が低くなり、1人あたりの負担が大きくなる (8ページ)。 (5) 夫婦と未婚の子どもの家族 (8ページ)。 (6) 同じ家でくらす人のまとまりが1人の世帯 (8ページ)。

4【9・10・11ページ】

(1) 科学 (2) 芸術 (3) 年中行事 (4) 伝統芸能 (5) 無形文化遺産 (6) 多文化共生 (1) 自然や社会のしくみを明らかにし、生活を便利で豊かにする。使い方によっては問題もおこす (9ページ)。 (2) 絵画・音楽・文学などで人々の心を豊かにする (9ページ)。 (3) 毎年決まった時期に行う行事 (10ページ)。 (4) 長い歴史の中で受けつがれてきた伝統文化のうち、芸能にあたる物 (10ページ)。 (5) ユネスコの登録。形の無い文化を守り、受けつぐ (10ページ)。 (6) ちがいを認め合い、対等な関係でともに生きること (11ページ)。

5【12ページ】

(1) 社会集団 (2) 社会的存在 (3) 対立 (4) 合意 (5) イ (1) 人間がいろいろな集団に属して生きる、その集団のこと (12ページ)。 (2) 人間はいろいろな社会集団に属して生きる、社会的存在とよばれる (12ページ)。 (3) 考え方や利害のちがいが意見がぶつかること (12ページ)。 (4) 話し合っ、たがいが受け入れられる解決策にいたること (12ページ)。 (5) 家族のあり方は、一人ひとりを大切に、男性と女性が対等であるという考えにもとづく (12ページ)。

6【13ページ】

(1) 決まり (ルール) (2) ア (3) 全会一致 (4) 多数決 (5) ウ (6) (例) 少数の意見も十分に聞き、尊重すること。

(1) 対立を防ぎ、合意したことを守るためにつくる (13ページ)。(2) 決まりによって、たがいの権利が守られ、守る責任や義務が生まれる (13ページ)。(3) 全員が納得するが、決まるまでに時間がかかることがある (13ページ)。(4) 賛成が多い方に決める。少数の意見が反映されにくいので、少数意見の尊重が大切 (13ページ)。(5) 代表者が話し合うと、早く決まる。全員の意見は反映されにくい (13ページ)。(6) 入れる語「少数」「聞く」。採点のめやす：少数の意見を聞く・尊重する、の中身があれば正解 (13ページ)。

7【14ページ】

(1) 効率 (2) 公正 (3) ア (4) イ (5) (1) (6) ア

(1) むだなく使えているか、全体として大きな利益が得られるか (14ページ)。(2) 一人ひとりが尊重されているか (14ページ)。(3) みんなが話し合いに参加して決めたので、手続きの公正さ (14ページ)。(4) 特定の部だけが有利にならないように機会を分けたので、機会や結果の公正さ (14ページ)。(5) 道具をむだなく使えるので、(1) (効率) の考え方 (14ページ)。(6) 効率と公正は、どちらか一方でなく、両方から案を見て、みんなが納得できる案をさがす (14ページ)。

8【15・16ページ】

(1) 見直す (2) 契約 (3) エ (4) ウ → イ → ア → エ (5) (例) むだがないか (効率) と、だれにとっても同じ条件か (公正)。

(1) 状況が変われば、決まりをつくったときの前提が変わるので見直す (15ページ)。(2) たがいに合意して結ぶ約束。口約束でも成立する (15ページ)。(3) 契約は口約束でも成立し、たがいに守る義務が生まれる。店は商品をわたす義務、買う人は代金を払う義務を負う (15ページ)。(4) 意見がぶつかる (ウ) → 案を2つの見方で見ると (イ) → 話し合っで受け入れられる形に決める (ア) → 使ってみて必要なら改める (エ) の順 (16ページ)。(5) 採点のめやす：観点の表の4つ (目的に合っているか・公正か・効率的か・みんなが参加して決めたか) のうち2つ (15・16ページ)。